

受領No.1521

## 変わりゆく「科学への市民参加」に関する人類学的研究： DIY バイオを事例として

代表研究者 桜木 真理子 大阪大学 人間科学研究科 博士後期課程

### Anthropological Research of Changing “Public Participation in Science” : A Case Study of Do-it-yourself Biology (DIYbio)

Representative Mariko Sakuragi, Graduate School of Human Sciences, Osaka University, PhD candidate

#### 研究概要

本研究の目的は、「DIY バイオ」と呼ばれる新たな市民参加活動の事例研究を通して変わりゆく市民参加の動態を描き、具体的な科学技術・実践が、市民参加における「科学」のあり方やそれに携わる市民の主体性にどのように影響しているのかを明らかにすることである。近年、オープン・サイエンスや SNS の普及に伴い、科学への市民参加は新たな展開を迎えている。従来型の科学への市民参加では、科学者がアジェンダを設定し、市民がそれに従い科学的調査に協力する参加形態が一般的であったのに対し、今日では市民自身が自律的にアジェンダ設定や科学実践に着手する市民参加が登場している。その代表例が「DIY バイオ」と呼ばれる科学技術の民主化を目指す活動であり、市民が自ら実験手法・ツールを簡易化することによって、科学機関に所属しないあらゆる人々に科学技術へのアクセスを開くための取り組みを行っている。こうした新しい市民参加の当事者にとって、アジェンダ設定と科学技術の民主化は等しく重要な問題だと考えられている。

本研究では、国内で DIY バイオに取り組む個人・団体を調査対象とし、インタビューおよび参加観察から、今日の市民参加における科学技術と実践の役割を明らかにする。市民参加を科学技術と実践の観点から再考することによって、変わりゆく市民参加を論じるための枠組みを提供し、さらにそれが示唆する現代の科学と市民の関係性の変化を示すことが本研究のねらいである。